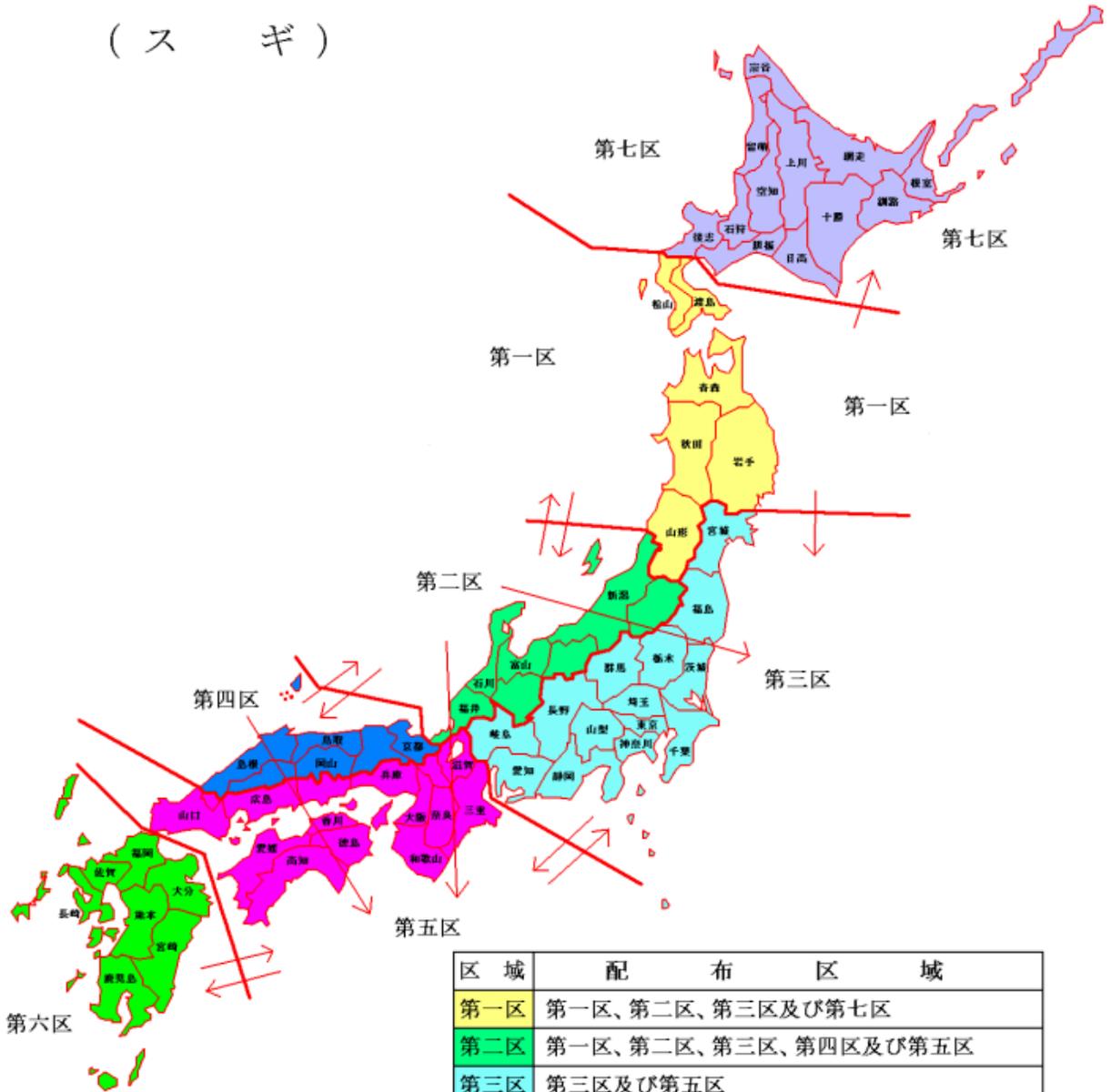


VII その他

1. スギの種苗配布区域

(スギ)



区 域	配 布 区 域
第一区	第一区、第二区、第三区及び第七区
第二区	第一区、第二区、第三区、第四区及び第五区
第三区	第三区及び第五区
第四区	第二区、第四区及び第五区
第五区	第三区、第五区及び第六区
第六区	第五区及び第六区
第七区	第七区

→ : 矢印の方向へ、種苗の配布（移動）が可能

VII その他

2. 用語の解説

1) エリートツリー

第2世代以降の精英樹の総称。全国各地の国有林や民有林で選抜された第1世代精英樹の中でも、特性の優れた系統等を交配して作出した実生後代の中から選ばれた、第2世代以降の精英樹。成長性、材質や通直性が遺伝的に優れていることが期待される。

2) 特定母樹

「森林の間伐等の実施の促進に関する特別措置法（間伐等特措法）」に基づき、成長に優れたものとして農林水産大臣が指定した系統。在来の系統と比較して1.5倍以上の材積を示すため、特定苗木を活用することで森林のCO₂吸収能力が高まることが期待される。また、スギ・ヒノキに関しては、花粉量が一般的なスギ・ヒノキのおおむね半分以下であることが指定基準となっているため、特定母樹は「スギ花粉発生源対策推進方針」において「花粉の少ない品種」と位置づけられている。

3) 次代検定林

選抜系統の子供（次代、または後代ともいう）の成績から選抜系統の遺伝的能力を評価することを次代検定（後代検定）と呼び、そのために造成された試験林を次代検定林と呼ぶ。次代検定林の調査データを用いて、精英樹の評価や選抜効果の確認、遺伝パラメーターの推定や次世代精英樹の選抜が行われている。

4) エリートツリー候補木

エリートツリーを選抜するための試験林に植栽された精英樹の実生後代で、樹高及び胸高直径によって算出される材積から、5段階評価（評価値5が優れている）で、評価値が4以上に相当する個体であり、エリートツリーの候補として選抜したもの。エリートツリー候補木の内、幹の曲りや材の剛性に著しい欠点がなく、病虫害に脆弱ではないことが認められ、スギ・ヒノキについては雄花着花量が多くないことを確認した上でエリートツリーとなる。

5) 遺伝試験林

次代検定林の種類の一つ。精英樹の形質の遺伝様式等を明らかにすることを主目的とし、精英樹のクローン（さし木苗木）や精英樹の交配家系（実生苗木）が植栽されている。

6) 育種集団林

次世代の精英樹を選抜するための母集団とすることを目的とし、成長、材質などに優れた精英樹同士、あるいは精英樹と気象害、病虫害抵抗性個体との間の人工交配等で育成された個体群で造成された試験地。エリートツリーの選抜に活用。

7) 育種価

その系統が持っている遺伝的な能力を数値で表したものの。解析対象としている形質に影響を与える複数の遺伝子の効果が足し合わされた数値。高い育種価を持つ系統は、より優れた遺伝子を持ち、その子孫も優れた性質を受け継ぐ可能性が高いと期待される。

VII その他

8) BLUP (Best Linear Unbiased Prediction) 法

育種において遺伝的能力を評価するために用いる統計的手法。環境要因等をモデルに組み込んで補正しながら育種価を予測するために考案された方法で、家畜育種等の分野でも広く使われている。

9) BreedR

線型混合モデルからBLUP値を求めることのできるフリーの統計解析ソフトRのパッケージ。

10) 空間自己相関

隣接する個体間のもつ誤差に相関構造を仮定したもの。空間自己相関の推定を育種評価に取り入れることにより、成長等の表現型値に含まれる空間的に偏りのある立地環境（尾根や谷といった地形等）等による誤差を分離できるものと期待される。

11) クローン検定

系統間の遺伝的な差異を評価するため、検定を行う系統からクローン苗木（通常さし木やつぎ木の無性生殖により増殖された同一の遺伝子型を持つ個体群）を作出し、それらのクローン苗木を試験地に植栽して、定期的な特性調査を行い、系統間の差異を評価するために行う検定。

12) 剛性

物体が変形や振動に対してどの程度抵抗するかを示す性質。物体が外部の力や負荷によって変形しにくいほど、剛性は高いと言える。剛性は物体の強度や耐久性と密接に関連しており、特に構造物や材料の設計や評価において重要な要素となる。剛性は通常、材料のヤング率や断面形状等によって決定される。

13) 応力波伝搬速度

材料中を応力波が伝搬する速度を表す物理的な指標。一般的に、固体材料や構造物において、外部から加えられた応力や衝撃などの力が材料内部を伝わる際に生じる波動の速度を指す。剛性の高い材料や密度の高い材料ほど、応力波の伝搬速度は速くなる。また、物体中の応力波伝搬速度 (m/s) の2乗と密度 (kg/m³) の積がヤング係数であり、ヤング率の評価に用いられる。

14) ヤング係数 (ヤング率)

材料の変形しにくさを表わす係数。ヤング係数が大きいほど変形しにくいことを示し、材料の剛性は高くなる。

15) 育種区

ほぼ共通な環境条件であると認められる一定の区域。全国で19の育種区が設定されており、関東育種基本区には4つの育種区（北関東育種区、関東平野育種区、中部山岳育種区、東海育種区）が設定されている。

VII その他

16) 前方選抜

前方選抜は、選抜の候補となっている個体やその親、兄弟等の血縁関係がある個体の調査結果（検定データ）から、遺伝的能力を表す指標である育種価を推定して優良な個体を選抜する方法。

17) 後方選抜

選抜の候補となっている個体の実生の調査結果（検定データ）から、当該個体の育種価を推定して優良な個体を選抜する方法。後代の苗木の成長を調べるため、品種開発までに期間を要するが、確実性が高い方法。